



芝・品川のを語ろう 江戸前ESDしながわ塾

ミニ瓦版 第6号



東京海洋大学 江戸前ESD協議会 〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学海洋科学部

第6回江戸前ESDしながわ塾

芝・品川のを語ろう

川辺 みどり (江戸前ESDしながわ塾事務局)

まだ暑さの残る9月18日(土)、江戸前ESDしながわ塾の最終回、「第6回 江戸前ESDしながわ塾 芝・品川のを語ろう」が東京海洋大学楽水会館1階大会議室で開催されました。

最終回には19名の方々にご参加くださいました。スタッフは、しながわ塾実行委員会の小堀信幸さん(船の科学館)、藤塚悦司さん(大田区郷土博物館)、師田彰子さん(全国内水面漁業協同組合連合会)の3名に、梅川瑞穂さん(日刊水産経済新聞)が助っ人としてご参加くださり、海洋大教職員および学生を加えた計14名です。

最終回では、前回に引き続きワークショップで、次の3つのことをおこないました。

1. 4つのテーマ(「1.港湾」、「2.環境と生きもの」、「3.江戸前の漁業と魚食」、「4.東京湾の海辺を楽しむ」)ごとのテーブルに分かれて、参加者のみなさまそれぞれがリサーチされた成果を共有する。その上で、東京湾で「これからもずっと続けてほしいこと」、「ちょっと問題なので改善してほしいこと」、そして「これからの芝・品川のもっと望むこと」を話し合う(「ずっと、ちょっと、もっと、芝・品川のもっと」)。
2. 各テーブルの代表の方に、テーブルで話し合われた内容についてご報告いただき、会場全体で共有する。
3. 各テーブルで作成した、「これからの芝・品川のもっと望むこと」(提案)にもとづいて、江戸前ESDしながわ塾からの「提言」をつくる。

以下に詳しく述べます。

第1部 テーブルで語ろう、芝・品川のもっと

リサーチ成果の発表と質疑応答

第1部では、前回と同じように、参加者のみなさまが選んだテーマごとに4つのテーブルに着席いただきました。各テーブルでは、小堀さん(港湾)、石丸教授(環境と生きもの)、藤塚さん(江戸前の漁業と魚食)、師田さんと梅川さん(東京湾の海辺を楽しむ)の各氏が進

芝・品川のを語ろう 江戸前ESDしながわ塾

第6回 芝・品川のを語ろう

日時：2010年9月18日(土) 13:30-16:30
場所：東京海洋大学 楽水会館 1階大会議室

13:30 塾長のご挨拶

河野 博 (東京海洋大学)

第1部 テーブルで語ろう、芝・品川のもっと

13:40 リサーチ成果の発表と質疑応答

14:30 「ずっと、ちょっと、もっと、

芝・品川のもっと」

第2部 これからの芝・品川のもっと望むこと

15:10 テーブルからの報告

15:30 「共感！」これからの芝・品川のもっと

15:50 江戸前ESDしながわ塾からの提言

第3部 江戸前ESDしながわ塾 閉講式

16:00 修了証授与式

16:10 最後にひとこと

ご参加のみなさま

16:30 塾長から御礼

河野 博

東京海洋大学江戸前ESD協議会からご挨拶

代表 石丸 隆 (東京海洋大学)

全員で記念撮影

表1 第6回江戸前ESDしながわ塾のプログラム



写真1 まず始めに、河野博塾長が本日のワークショップのプログラムを説明しました。

行役を務め、参加者のみなさまが文献をひも解き、現場を訪れ、また、関係者にインタビューをしてリサーチされた結果を順々に発表いただきました。この間、他の方々は、気がついたことなどをポストイットにどんどんメモをします(写真2～5)。

「ずっと、ちょっと、もっと、芝・品川の手」

リサーチ成果の発表の後、テーブルでは、書きためたポストイットをもとに、東京湾で「これからもずっと続けてほしいこと」、「ちょっと問題なので改善してほしいこと」を話し合いながら、模造紙に書き込んでいきました。そして、今回のワークショップの眼目である、東京湾のこれからについての提言を生み出すために、「これから、芝・品川の手がこうなってほしい、こうしている」という「具体的な提案」を各テーブルで考えていただきました。

第2部 これからの芝・品川の手に望むこと

テーブルからの報告

まず、第1部でテーブルで話し合っていたことを会場全体で共有します。そのために、テーブル代表の方に前に出ていただき、作成した「ずっと、ちょっと、もっと、芝・品川の手」の模造紙を提示しながら、みなさまがどのようなリサーチをされてきたのか、そして、東京湾で「これからもずっと続けてほしいこと」、「ちょっと問題なので改善してほしいこと」、「これからの芝・品川の手にもっと望むこと」は何かを発表していただきました(写真6～9)。

「共感！」これからの芝・品川の手

4つのテーブルからの発表の後、金色のシールを3枚ずつお配りしました。そして、休憩を兼ねながら、各テーブルで作成された模造紙を回って見ていただき、ご自分が共感する提案にシールを貼っていただきました(写真10)。

江戸前ESDしながわ塾からの提言

3枚以上のシールが貼られてた提案は9つありました。表2に得票数の多かった1位から5位を示します。河野塾長の「1位から5位までを江戸前ESDしながわ塾からの提言とさせていただきますよいいでしょうか」との問いかけに、会場のみなさまから拍手でご同意いただき、ワークショップを終了しました。

第3部 江戸前ESDしながわ塾 閉講式

いよいよ閉講です。しながわ塾に4回以上出席された方々に河野塾長が修了証を手渡した後、参加されたみなさま、江戸前ESDしながわ塾実行委員の方々、教職員スタッフ、そして、当日飛び入りで参加された、しながわ塾のスポンサーである財団法人日本生命財団のお二人をふくめた全員から、30秒でひと言ずつ感想をいただきました。

最後に、東京海洋大学江戸前ESD協議会代表でもある河野塾長が、6ヶ月間おつきあいいただいたことに対するお礼の言葉を述べ、また、共同代表である石丸教授が、「参加されたみなさまの熱意とコミュニケーション能力の高さについて感動した」との挨拶と今後の活動についての予定をご報告して、しながわ塾は幕を下ろしました。

(かわべ・みどり)



写真2 一番の大所帯である「港湾」のテーブルでは、東京湾の名前の由来、埋立てや船の歴史、防災などがリサーチのテーマでした。



写真3 「環境と生きもの」のテーブルでは、バラスト水、下水処理、荒川、浮世絵に描かれた干潟の生きものなどについて発表されました。



写真4 「江戸前の漁業と魚食」のテーブルは、魚食班と漁業班に分かれてリサーチ、発表では江戸前寿司の実物まで飛び出しました。



写真5 「海辺を楽しむ」のテーブルでは、釣りの実体験や海洋観光立国構想が語られました。



写真6 「港湾」テーブルの発表。



写真7 「環境と生きもの」テーブルの発表。



写真8 「江戸前の漁業と魚食」テーブルの発表。



写真9 「東京湾の海辺を楽しむ」テーブルの発表。

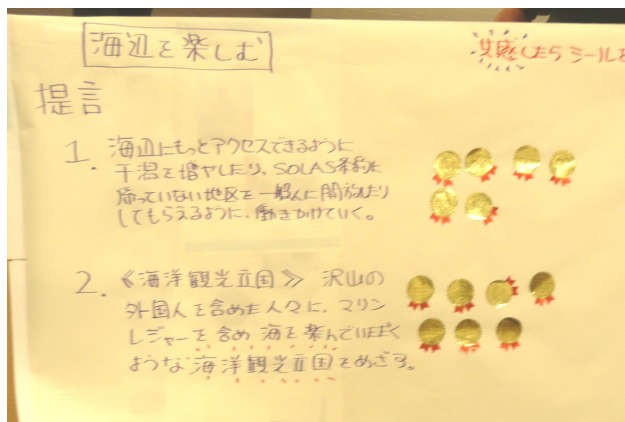


写真10 共感する提案に★シールを貼りました。



写真11 最後に挨拶をする石丸 隆 東京海洋大学江戸前ESD協議会代表(右)と河野 博 塾長(左)。

表2 江戸前ESDしながわ塾から、これからの東京湾への提言

提 案	★得票数
海辺にもっとアクセスできるように、干潟を増やしたり、SOLAS条約に係わっていない地区を一般人に開放したりしてもらえるように、働きかけよう。	14
たくさんの外国人を含む人たちに、マリンレジャーを含め、海を楽しんでいただくような「海洋観光立国」をめざそう。	9
「水辺の日」を作ろう。	9
東京湾についてもっと学ぼう。そして環境保全を政策的に実施しよう。	8
地形や植栽を人間的見地からでなく、環境としてとらえるべきです。埋め立て地の利用のしかたや植栽に、一層の研究・検証、そして配慮が望まれます。	6



写真12 最後に参加者とスタッフ全員で写真を撮りました。最前列中央が石丸 隆 代表、最後列右から4番目が河野 博 塾長。

第6回しながわ塾のふりかえりシートから しながわ塾に参加されて、 考えられたこと、感じられたこと

最後にご記入いただいた「ふりかえりシート」に、しながわ塾全体について次のような感想をいただきました。

- ✔ 他の方の意見を聞きながら、新たな発見がたくさんできて、本当に楽しかったです。
- ✔ 最終日の発表では、この講座に参加された皆様の素晴らしい発表を伺うことができ、勉強になりました。得た情報は他の方も共有し、今後の環境問題について語り合う機会がまたあれば是非参加させていただきたく思います。
- ✔ 直接に歩いて、土地を体感し、船に乗って海を実感して、座学から一步離れた勉強の豊かさ、素晴らしさを知りました。このような機会があったら、また是非とも参加したいと思います。
- ✔ 初めての経験で大変良かった。
- ✔ 日本は海に囲まれた「海洋国」であり、温暖な気候、北には流水、南にサンゴ礁の豊かな水と緑の国。そしてどこに行っても温泉があり、自然豊かな国。この素晴らしさを皆で再確認し、欲望を刺激し続けて成立している工業立国を抜本的に見直し、海を楽しむ海洋観光立国を夢見続けたいと思います。
- ✔ 講義(話)とフィールドワークがあって、良い体験学習ができました。ポストイットでの意見提出やリサーチ(調査)は辛かったです。理解が大変高まりました。江戸前の食を体験したいです。研究室で顕微鏡を操作できるとは思いませんでした。
- ✔ いろいろな考え方の人たちに出会えて、それが最も

良かったかも。大学での講義のせいか、積極的な人が多いようでした。

- ✔ 非常に質の良いワークショップでした。
- ✔ いろいろの事が再認識出来ました。
- ✔ 多方面から東京湾を見る事ができて楽しかった。ぜひ次の企画をお願いします。
- ✔ とても感謝しています。これからもチャンスを作ってください。
- ✔ 東京という都市が成長した事を感じました。
- ✔ 先ず、このような機会をいただき、ありがとうございます。東京湾に対する意識が変わりました。自分が東京湾を汚している一員ということすら意識がありませんでした。東京湾をよみがえらせたい、という気持ちになりました。

前向きな感想をたくさんいただき、どうもありがとうございました。今後の活動への励みになります。

(江戸前ESDしながわ塾事務局)

しながわ塾ご参加のみなさまへ

しながわ塾を昨年12月に起案して以来、本当に多くの方々からご助言とご支援をいただきながら運営してきました。特に、小堀信幸さん(船の科学館)に最初にご相談した際に、大野伊三男さん(東京みなと館)と今井健三さん(日本水路協会)をご紹介いただいたこと、そして藤塚悦司さん(大田区郷土博物館)ともども実行委員となっただけで、海洋大スタッフだけでは扱いにくい、けれども、東京湾を語るためには欠かせない、港湾と歴史をその内容に含めることができました。

しながわ塾全体については、稿をあらため、「江戸前の海 学びの環づくり 瓦版」としてご報告したいと思います。ご参加のみなさまには半年間の長きにわたっておつきあいいただき、本当にありがとうございました。

江戸前ESDしながわ塾事務局